

次回予約のある患者さんへ

新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時的措置として、当院では、一部の患者さん向けに電話診療による処方箋発行をご案内しております。

対象となる方 慢性疾患等により当院で定期的に処方を受けている方

処方できるお薬 これまで定期的に処方されていた慢性疾患等に対するお薬

①お申込み

診療予約日の10日前までにお電話でお申し込みください。

受付時間 14時00分から16時30分(平日のみ)

電話番号 0463-81-3721(代表) 予約診療科をお伝えください。電話交換よりお取次ぎいたします。

あらかじめお手元に「診察券」「保険証」「お薬手帳」をご用意ください。

確認事項 ①診療科 ②診察券番号 ③お名前 ④電話番号(電話診療を受ける際の連絡先)
⑤再診予約日 ⑥受取を希望する調剤薬局の情報(店舗名、FAX番号) ⑦保険証番号

②電話診療

診療予約日時に担当医から患者さんへお電話いたします。

診療の都合により、予約時間が大きく前後する場合がございますが、医師からの電話をお待ちください。「診察券」「お薬手帳」をお手元にご準備ください。

※次回の診療予約をされる場合は、必ず予約日時をメモなどにお控えください。

③薬の受取

電話診療終了後、処方箋をご希望の調剤薬局あてにFAX送信いたします。
電話診療の翌日から3日以内にご希望の調剤薬局でお薬をお受取りください。

④お支払い

電話診療に係る費用は、後日、自動精算機または会計窓口でお支払いください。
平日(月～金) 8:30～17:00

注意事項

① 電話診療をお受けできない場合があること

医師が対面診療の必要があると判断した場合はお受けできません。
医師のスケジュールにより、お受けできないことがあります。

② 臨時的な取り扱いであること

新型コロナウイルスの感染拡大を防止する観点から、厚生労働省より認められた期限付きの取扱いのため、終息へ向いたところで終了となります。

表紙写真

秦野赤十字病院ボランティアグループより、当院で化学療法を受けている患者さんへ、手作りのタオルキャップをご寄贈いただきました。柔らかな肌触りのタオル生地から作られたキャップは通気性もよく、蒸し暑い夏でも快適な使用感です。辛い治療中に少しでも明るい気持ちになれるよう、優しい色合いのタオルでひとつひとつ丁寧に作られています。新型コロナウイルス感染拡大防止のため一時休止していたボランティア活動を7月より一部再開して頂いております。

ぴーなっつうしん

Vol.12
2020.8

秦野市の特産品「ピーナッツ」の花言葉は、「仲よし・楽しみ」。生活に役立つ情報や当院の魅力などを提供し、地域のみなさんと病院とのコミュニケーションツールになる広報誌を目指します。



手作りの帽子を患者さんへ

特集

認知症 「聴力の低下が最も大きな危険因子」
正しい知識で感染症対策を日常のスタンダードへ

寄贈のお礼 地域住民の皆様、近隣の企業・団体様より、全国的に衛生材料が不足するなか、貴重な品にも関わらずサージカルマスクや防護具等のご寄付を頂き、職員一同、深謝申し上げます。

今年度4月より耳鼻咽喉科常勤医師1名を新たに迎え、診療の幅が広がりました。

認知症の危険因子

“聞こえ”のはなし

認知症は、脳の細胞がさまざまな原因で減少したり、働きが悪くなることによって、記憶力や判断力が低下する状態をいいます。認知症になると、今までできたはずのことができなくなるなど、日常生活に障害が生じます。

「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」では、2025年の認知症の有病者数は約700万人になると推計されています。現時点では、認知症を根本的に治す治療法はありませんが、ライフスタイルを改善すれば、リスク低減は可能であることが近年分かってきました。

2017年7月イギリスの医学雑誌『Lancet』（ランセット）の認知症予防・介入・ケアに関する国際委員会においては、「11～12歳までに教育が終了」「高血圧」「肥満」「聴力低下」「喫煙」「抑うつ」「運動不足」「社会的孤立」「糖尿病」を**本人の意識しだいで改善できる9つの危険因子**であると発表しています。

老化現象のひとつとして誰にでも起こりうる聴力低下は、単に音が聞こえにくくなるのではなく、音の大小にかかわらず言葉そのものが聴き取りにくくなる状態です。

言葉がうまく聴き取れないことが原因で、“何度も聞き返すうちに会話が弾まない”、“分からないまま返事をして誤解を与えてしまう”など、コミュニケーションがうまくいかなくなると会話そのものが億劫になってしまいます。

その結果、周囲の人との会話を避け、社会的に孤立してしまうと、外部から脳に伝えられる情報量の低下から、脳の萎縮や神経細胞の弱まりが進み、やがて抑うつ状態から認知症へ進展してしまいます。このことから、「**聴力の低下が最も大きな危険因子**」であると言われているのです。

現在、加齢による難聴は医学的な治療が困難ですが、補聴器を装用するなど、聞こえにくさを改善しスムーズな会話を取り戻すことは可能です。年齢のせいだからと放置せず、適切な「聞こえ」を維持しながら脳を活性化し、家族や友人とのコミュニケーションを楽しみ、積極的な社会との関わりを持って予防に努めましょう。

— 市民のみなさまへ —

この度、赴任して参りました神川と申します。

今までは、常勤医不在のため入院治療ができずご迷惑をお掛けしておりました。今年度より、当院でも入院および手術が可能となり、地域医療に少しでも貢献できるように頑張っていまいりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。



耳鼻咽喉科医師 神川 文彰 (かみかわ ふみあき)

正しい知識で感染症対策

緊急事態宣言解除後も連日報道される新型コロナウイルス感染症陽性患者は、都心部を中心に増加傾向を示し、この流行感染症は中長期にわたると想定されています。

波のように押し寄せては収まるこの長期戦を今一度、正しい知識を持って、新しい生活様式を日常生活に取り入れていきましょう。

Step1 感染経路

飛沫感染(ひまつかんせん)

近距離での会話によるしぶき、咳やくしゃみによって放出される水滴を飛沫といい、そのウイルスを含んだ水滴を吸い込むことで感染することを飛沫感染といいます。

接触感染(せつしょくかんせん)

感染者がくしゃみや咳をする際に手で口元を覆い、そのまま押しボタンやドアノブなどに触れると物の表面にウイルスが付着します。それを別の人が触れることで、手にウイルスが付着し、口や鼻、目などに触れた場合に粘膜から感染することを接触感染といいます。

Step2 予防策

マスクの着用と咳エチケット

咳やくしゃみの飛距離は1～2mとも言われています。咳やくしゃみをする際は、マスクやティッシュ、ハンカチ、袖、肘の内側などを使って、口や鼻を覆い飛沫(しぶきの飛び散り)を防ぎましょう。

こまめな手洗い

食事の前と後、手すり・ドアノブ・スイッチなどに触れたとき、咳やくしゃみで口もとを押さえたあと、公共の場所から帰って来たときや遊具やつり革など外にあるものに触ったときなど、こまめに手洗いをしましょう。

当院では、ご来院の方へ院内感染防止対策として正面玄関での手指消毒、体温測定、マスク着用にご協力頂いております。また、窓口にはビニールカーテンの設置や人と人との間隔を確保するための目印を付けるなど「感染させない」「感染しない」をモットーに環境整備に努めております。



身の回りを清潔に

新型コロナウイルスには、“エンベロープ”と呼ばれる膜があり、アルコール消毒液や次亜塩素酸ナトリウム水溶液は、その膜を壊す作用があるため、適宜身の回りの消毒をすることで、接触による感染を防ぐことができます。毎年流行するインフルエンザウイルスも同様の膜を持つウイルスのため、同じ効果が得られます。また、家庭用洗剤を使用した拭き取り清掃も、洗剤に含まれている界面活性剤で効果的な除去が可能です。

私たちの周囲の環境から、ウイルスや細菌を完全に無くす事は不可能です。環境に触れた際には、石けんやハンドソープでもみ洗い後15秒以上の流水ですすぐ手洗い、または、アルコール消毒液で手指消毒を行うなど、**環境から身体の中に取り込まないことが最も大切です。**



当院では、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、ご来院の皆さまにマスクの着用をお願いしております。数に限りがございますが、マスクの販売機を設置しており、ご購入も可能です。



コンビニエンスストア利用の方、受診の有無を問わず、ご来院の全ての方に正面玄関で手指消毒にご協力いただいております。また、院内に設置している消毒液はご自由にご利用いただけます。



発熱のある方と同じ空間でお待たせすることのないように、サーモグラフィーによる体温測定を実施しています。